

# 稲・大豆作情報 (NO. 2)

## 1. 水稲作況情報田の生育概況 (7月8日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況			概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m <sup>2</sup>	主 稈 出 葉 数	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 19.6株/m <sup>2</sup>	本 年	38.7	240	7.6	7月1半旬は、平年より高温・少雨・多日照で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈：「夢しずく」は高く、「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや低い。 茎数：いずれの品種も多い。 主稈出葉数：「夢しずく」はやや進んでおり、他は平年より遅れている。
		平 年	36.0	191	7.3	
		平年比	(108)	(126)	(+0.3)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 17.5株/m <sup>2</sup>	本 年	33.9	192	6.9	
		平 年	33.4	173	7.4	
		平年比	(101)	(111)	(-0.5)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 19.3株/m <sup>2</sup>	本 年	22.0	83	5.2	
		平 年	23.1	81	5.8	
		平年比	(95)	(102)	(-0.6)	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる  
注2) 平年値は、過去10年間 (H24~R3) の平均値

### ◆農業試験研究センター米づくり情報2号 7月8日 (抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 c m	茎 数 本/m <sup>2</sup>	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
平 年	34.7	190	7.2	35.6			
平年比(差)	99	107	+0.7	+1.6			
ヒノヒカリ	本 年	25.7	262	7.3	39.6		
	平 年	28.6	252	7.4	37.1		
	平年比(差)	90	104	-0.1	+2.5		
6月20日	さがびより	本 年	28.0	183	7.3	39.0	
		平 年	30.6	175	7.3	37.9	
		平年比(差)	92	105	±0	+1.1	
	ヒヨクモチ	本 年	26.0	356	7.7	41.9	
		平 年	27.3	308	7.6	39.3	
		平年比(差)	95	116	+0.1	+2.6	

注1) 耕起概要等は前号参照。

## 2. 水稲管理

**土壤の酸素不足、麦わら腐熟によるガス湧き、スクミリンゴガイ食害で、分けつが遅れている圃場が散見される。適正な水管理を行い、できる限り生育回復に努める。**

### ○水管理 ～ 時期に応じた水管理の徹底 ～

- ・引き続き、除草剤施用後の湛水期間を過ぎた圃場は、溜め水とせず速やかに間断かん水に移行し、土壤に酸素を供給し、稲体の健全化を図る。
- ・ガス湧きが確認されている圃場は、1～2日落水→数日浅水管理→1～2日落水を繰り返し、土壤の急激な還元化を抑制する（目安としては、落水後、田面に軽くひび割れがみられるようになったら入水）。
- ・スクミリンゴガイの食害被害も水位管理不良田、圃場凹部で確認されている。浅水にして貝の活動抑制を行うと共に薬剤防除を実施する。
- ・余り苗はいもち病やウンカの温床になるため、補植作業が終わったら、直ちに除去する。

### ○除草剤 ～初期剤散布の遅れた圃場は特に雑草の生育に注意～

- ・雑草の生育（葉齢）に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

### ○中間追肥 ～ヒノヒカリ、ヒヨクモチ～

- ・元肥を即効性の肥料（BB480等）を使用した場合は次の通り。  
「ヒノヒカリ」：7/5～10頃、窒素成分で2.0 kg/10a（BB480：15kg/10a）程度  
「ヒヨクモチ」：7/15頃、窒素成分で1.6～2.1 kg/10a（BB480：12～15kg/10a）程度

## 3. 大豆管理 ～圃場条件が整い次第播種を～

### ○圃場準備 ～ 耕起は水分の低い時に、大雨・長雨予報の時は無理しない！～

- ・荒起は、圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。
- ・天候が変わりやすい場合には、無理に荒起こしはせず、1工程で浅く耕起して播種する。

### ○播種

- ・**種子消毒**：紫斑病や腐敗防止および発芽率の向上のため、必ず実施する。

#### ・播種量

播種日	栽植本数 m <sup>2</sup> あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月6日～15日	13本	75×20×2	4.0

#### ・播種深度

土壤水分が高い場合や播種後2～3日以内に降雨が予想される時→2cm程度の浅め 鎮圧しない  
播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧をおこなう。

#### ・除草剤

播種前)「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稲へ影響が大きい（場合によっては枯死まで至る）、厳禁！必ず避ける。

播種直後) 土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」が効果的である。播種直後の散布でも、隣接圃場の水稲へドリフト防止のため風速と風向き等に注意し、風が強い日には散布しない。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壤混和处理（播種前に200～300 ml/10a 散布→速やかに荒起→播種）で密度を減らすことができるため、土壤処理剤や大豆生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

### 令和4年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業振興センター

